

読み札	絵札	解説
<p>な 奈良大平の 古墳群</p>		<p>奈良町の大平、八幡平には、今も十数基の古墳が残っているが、かつては「奈良の百塚」といわれたほど多かった。横穴式小円墳で古墳時代後期（7世紀頃）の群集墳であり、ト字型の石室をもつ珍しい古墳もある。出土品には直刀・馬具など武器具のほか、勾玉・丸玉・切子玉・硝子小玉・耳環などの装身具がある。</p> <p>昭和52年（1977）市指定史跡</p>
<p>に 一切経の 沼須町 人形芝居と</p>		<p>安政年間（1854～1860）、沼須の村人が阿波の国（徳島県）の旅芸人から人形を買い取り習った。この人形は一人づかいで、場所を取らず座敷の中で演じられるのが特徴である。昭和50年（1975）、郷土の伝統芸能として復活した。一切経鉄眼版33箱は、宝暦9年（1759）村人の寄付金により購入した。4月3日の砥石神社の祭典にはこの経箱を担ぎ、毎戸を回り無病息災を祈る。</p> <p>人形頭及び付属品は昭和51年（1976）市指定重要有形民俗文化財、一切経は同年市指定重要文化財。沼須人形芝居は平成7年（1995）市指定重要無形民俗文化財</p>
<p>ぬ 沼田のいのち 町を支えた 城堀川</p>		<p>沼田万鬼斎顕泰が沼田城の築城に際し、天文元年（1532）城中及び町民の飲用水として白沢川から15kmの用水路を作った。後に真田信吉が用水不足を補うため、川場村谷地の薄根川から取水した。白沢用水、川場用水を合わせて通称城堀川という。この用水は大正14年（1925）沼田町に水道ができるまで町民の生命の水であった。城堀川の正式名称は滝坂川である。</p>
<p>ね 歴史を刻む 御殿桜 年輪に</p>		<p>御殿桜は、沼田公園の西の高台にある。ここは、真田氏が築城の際、物見櫓があった場所で、樹齢400年と伝えられる。彼岸桜の老木ながら樹勢は極めて旺盛で、その姿は誠に美しい。城をめぐる興亡の歴史を見つめてきた御殿桜は、沼田の象徴的な存在となっている。</p>
<p>の 野風耐え 暮らしの歴史 南郷曲屋</p>		<p>旧鈴木家住宅。鈴木家は江戸時代、代々名主を務めた旧家で、検地等で訪れる役人の逗留施設としても使用したため、書院造りの間がある。築造年代は推定で天明5年（1785）頃。母屋に対して厩が矩の手に曲がっているところから、曲屋と呼ばれる。県下では数少ない茅葺屋根の本格的な曲屋である。</p> <p>平成16年（2004）利根村指定重要文化財。同17年（2005）市指定重要文化財。同18年（2006）に修復。同23年（2011）ぐんま絹遺産登録</p>